

# 全道交流会、 2004年は十勝で開催！



18日の午後一時、秋晴れの十勝平野を流れる札内川の河畔にある北海道エールセンターに集まり、今年の交流会がスタート。最初のプログラムは、「先住民の視点」をキーワードに「森づくり」、

今年で第二回となる北海道市民環境ネットワーク全道交流会が、昨年第一回の下川町での開催に続き、2004年9月18日(土)、19日(日)に、帯広市の周辺地域の十勝里地里山、札内川、十勝川などを舞台に開催されました。「先住民の知恵を知り、学び、考え、河川や里地里山など、十勝の自然を体験します。」のテーマのもと、先住民の視点で森や川など私たちの身のまわりの環境を考え、自然や生活に対する先住民の知恵を学ぶことが目的です。



「川づくり」、「里地里山の歴史と復元」の3つをテーマにした分科会です。各テーマはそれぞれ、NPO法人トカプチの森の太石共也さん、河川技術者の和田哲也さん、帯広観光体験ボランティアガイドの会の太田昇さんを案内人に、子どもの学び場を考える音和の森づくり、川と人が共生する多自然型の護岸工法、歴史の再発見によるまちづくりについて、十勝の地域の実例を通して学びました。

夜は、交流会のメインプログラムの一つ、萱野志朗さんを講師に迎えての講演会です。萱野さんは、アイヌ民具の展示で名高い、平取町の萱野茂二部谷アイヌ資料館の副館長で、「先住民(族)の知恵に学ぶ自然と生活文化」と題して、アイヌ語から読み取るアイヌの精神文化を紹介していただきました。例えば、物質的な充足、経済効率優先の日本の現状にあつて、アイヌ精神文化の「至福」は、「ネプア・エルスイカネプア・コンルスイカソモキノオカ・アン(何を食べたいとも何をほしいとも思わないでいる)」と表現したり、「カントオロワヤクサクノア・ランケベシネプカイヤサム(天から役目なしに降ろされた物はひ

「川づくり」、「里地里山の歴史と復元」の3つをテーマにした分科会です。各テーマはそれぞれ、NPO法人トカプチの森の太石共也さん、河川技術者の和田哲也さん、帯広観光体験ボランティアガイドの会の太田昇さんを案内人に、子どもの学び場を考える音和の森づくり、川と人が共生する多自然型の護岸工法、歴史の再発見によるまちづくりについて、十勝の地域の実例を通して学びました。



## 9月

### 開催概要★

**第2回北海道市民環境ネットワーク全道交流会in十勝**  
～先住民の知恵を知り、学び、考え、河川や里地里山など、十勝の自然を体験します～

主催	北海道市民環境ネットワーク全道交流会in十勝 実行委員会
共催	帯広NPO28サポートセンター／帯広観光体験ボランティアの会
後援	北海道開発局帯広開発建設部／環境省北海道地区環境対策調査官事務所／北海道／帯広市／財団法人北海道環境財団
開催日時	2004年9月18日(土)13:30～9月19日(日)15:30
開催場所	北海道エールセンターと周辺地域(十勝里地里山、札内川、十勝川など)
プログラム	*9月18日(土)
	13:30 開会式
	14:00～16:00 分野別の学び
	16:30～18:30 懇親会
	19:00～20:30 萱野志朗氏講演会
参加費	*9月19日(日)
	7:00 十勝里地里山散策 10:00 川から見る自然体験活動 14:00 「分野別の学び」の報告 15:30 閉会式
参加費	4,000円(家族割引:3,000円/9月18日のみの参加:2,500円)

とつもない」と考えたり。また、現在の地名にも多々残っている「ベツ(川)」、「ナイ(沢)」、「ポロ(大きい)」などのアイヌ語を知ることでもできました。

翌日19日の朝は、あいにくの雨模様でしたが、帯広川脇の「帯広発祥の地」や、札内川と帯広川の合流点などを散策。帯広発祥の地は、川舟だけが内陸への唯一の交通手段であった明治初頭の開拓期に船着場があった場所です。現在はその地に立つ一本の樹木がランドマークになっています。

百人鍋の昼食を挟んで、前日の分科会の情報共有をすると、全てのプログラムが終了。短い間でしたが、アイヌの知恵や考え方を知ったり、川に直に触れたり、とても有意義な全道交流会でした。

\*

散策を終えて北海道エールセンターに戻った頃には、すっかり雨もあがり、次はEポートでの川下り。夜半からの雨で増水した川は流れが速く、札内川から十勝川に合流し、十勝川温泉までの川下りは、あつという間でしたが、普段はなかなか見ることが出来ない川の上からの視点で、河川や周りの自然を体験できた貴重な時間でした。